

数量・価格共に不安定さ続くりんご加工原料

青森アップルジュウス株式会社

代 表 葛 西 務

※現状

青森県産りんご収穫量 50 万トン時代から、高齢化・担い手不足により 45 万トン時代に減少、しかし近年に至っては気象災害などに見舞われるなど、収穫量に大きな変動がある。県内りんご加工業界は、その年の作柄・収穫量減少に伴い、仕入れ価格の高騰により経営の圧迫は勿論のこと、需要に対し供給できない事によるユーザー離れである。

別表①平成 21 年産から平成 25 年産まで 5 年間の収穫予想と実績。

別表②加工りんご集荷量と加重平均単価。

別表③りんご果汁製造品目。

※ 課題

加工向け原料りんごは、未熟果も多くストレート果汁には向けられず濃縮果汁として規格調整し、自社用ではなく業務用原料果汁として飲料メーカー(ユーザー)に販売している。別表③のように 6 割以上が業務用原料果汁として飲料メーカーに販売していることにより、ユーザー離れは加工業界・りんご産業にとって最も危惧するところである。極端に言うと、ユーザー離れによって未熟果りんごは廃棄処分として処理されるという事である。

※ 今後の方向性

安定数量・安定価格を望めない現状にあっては、県内加工業界全体で果汁用約 7 万トン必要としているが、3 割減の 5 万トンで維持するようにする。
果汁以外りんごカット品・ピーレ等の加工品は現在も各社製造しているが、販路先を公共施設及び外食産業等に販路を拡大する。
その他りんごが持つ機能性に着目した、付加価値の高い新製品の開発に取り組み、海外販売も入れながら収益性の高い加工品を目指す。
その他加工適正の高い農産物の加工に取り組み(トマト・メロン・野菜汁等)新たな経営の柱を整える。

別表―①

平成21産から平成25産まで5年間の収穫予想・実績 (単位:トン)

区分	25年産		24年産		23年産		22年産		21年産	
	予想	実績	予想	実績	予想	実績	予想	実績	予想	実績
収穫量	430,900	406,000	437,700	446,000	412,800	367,600	453,400	452,500	460,400	457,300
加工向け	66,400	50,018	82,354	82,355	63,000	47,676	74,570	59,746	77,800	50,972

別表―②

加工りんご集荷量及び加重平均単価
(集荷量:トン― 加重平均単価:1kg当/円)

年 度	全体集荷量	内果汁用	果汁用加重平均	内缶詰用	缶詰用加重平均	
25年産	50,018	46,779	34	3,239	80	
24年産	82,355	78,975	29	3,379	64	
23年産	47,676	44,582	43	3,094	103	
22年産	59,746	55,814	22	3,932	56	
21年産	50,972	48,100	15	2,872	44	
合 計	290,767	274,250		16,516		
5年間平均	58,154	54,850	28.25	3,303	69	

別表—③

りんご果汁製造品目

(単位:トン)

年 度	ストレート果汁	4倍換算濃縮混濁果汁	5倍換算濃縮透明果汁	
25年度	12,596	4,040	1,428	
24年度	18,159	7,499	2,413	
23年度	12,068	3,581	1,578	
22年度	16,012	3,459	2,140	
21年度	14,937	2,749	1,798	
合 計	73,772	21,328	9,357	
5年間平均	14,754	4,266	1,872	
5倍濃縮換算	3,513	3,413	1,872	